

# 宗祖聖忌に思う

千賀真順

一

全浄土宗の道俗が十余年願望し、期待した両宗派の合同が実現し、大遠忌を目前に控えた宗門は祖聖への至上の供養なりとして安堵し、喜びに沸いている。この大合同はただ浄土一宗に限らず、仏教界・社会に取つても実に意義深いものがある。即ち十余年に渉る教・学・教化のマイナスは大きく、今後全宗門の総意を結集して積極的な努力が払われなくてはならない。宗門の識者は声を大にして合同後の在方へ切なる要望を注いでいる。勿論合同後も種々困難な具体的な事項の解決して、宗規・宗綱が決定されなくてはならない。どうか祖聖の遺範たる「総て共に是れ凡夫」の自覚に徹して円満な話合により、教学優先の大教団の未来が築けるよう念願してやまない。

先般ある地区で青年を交えた信者の人達の集いに参加して大変反省させられた。社会の声を卒直に聞くことが出来たからである。社会の声は何時の時代でも聞くことは歴史の証明するところであるが、今宗祖の聖忌に直面して特に宗門者として反省されるところである。即ち、

。宗門者はノレンに安座しすぎて努力が足りないのではないか。

。所謂新興宗教と称せられるものにも宗門者は学ぶべきものがある。

。仏教は祖先崇拜と余りに密着して発展して来たが、将来は教義中心の教化の方向へ努力すべきである。

。仏教義・宗義は難解で現代人、特に青年達には全く難しい。もつと解り易く説くべきである。

。宗門者は布教々化の前提として、現在人の心理面を把握し、社会不安、人心不満を抱いているものへの教化方法を考えるべきである。

。宗門者の社会觀察が薄弱であるばかりでなく、寺族の教養、特に信仰心が薄いので教化の実が挙がらない。

。宗門者の布教々化を見ると老人が才一線に立っている。老もよく若いも亦よろしい。現代人、特に若い人達とは人生觀・社會觀が違ふから十分教化の成績が挙げられない。宗門政治の惡弊を打破し、宗教的な教學体制によつて民衆に直結すべきである。宗門者は須らく寺院を私有？すべきでなく、正法宣布の場として民衆を指導すべきで、苟しくもその不適格者は追放すべきである。等々

### 三

教団・寺院・宗門者が過去の立派な歴史を背負うて明日に向つて進展しなければならぬといところに苦惱があり課題がある。故に進展するためには余程の努力を要する。併し長い歴史の傳承を十分に領受してその基調の上にこそ開顯すべきものがあることを反省しなければならぬ。今日これ程科學が発達して文化の恩恵に浴しながら、人間の苦惱は依然として解決しないのである。否むしろ人生の苦惱はより多く且つ深刻になつてゐる事實は掩うべくもない。ロケットは月世界に至るとも、人間の心には届かないと言える。成程、現実の教団・寺院・宗門者に対する批判は素直に傾聴すべきである。要は古今を通じて結局は人が問題であり、解決の鍵である。「國宝とは道心ある人」と道破されたが、法は人に依つて弘まる。即ち宗門者の自覺と共に誇りを持つことから自ら社會の要請を解決するで

あろう。宗門者としての自覚を持ち、誇りとすれば宗祖の人格・教説を直実に領受して現実に生かすべく、又生かすこととなる。今聖恩に当り祖恩を追憶し称名裡に二利円成に新なる感懷を切に催す次才である。（二・一五記）